

# 建築学用語における「環境」概念の歴史的変遷 —日本建築学会誌「建築雑誌」の通時的分析を通して—

藤本 佳奈

キーワード：「環境」概念、建築雑誌、建築学変遷、共起ネットワーク、通時的分析

## 1. 研究の背景と目的

普段私たちが何気なく使う“ことば”は、時に人によって捉え方が異なることがある。このような解釈が多様な“ことば”として「環境」がある。建築の分野においても「環境」は建築の計画部門・構造部門・環境部門の各分野で様々な意味付けがなされ、明確な定義を与えることが困難となっている。今日の日本の建築界でも「環境」は建築を語る上で必須の概念であり、「環境」という用語を用いる際に一定の共通認識が不可欠であるが、時代や分脈によって多様性がある。そこで本研究では、日本の建築界における「環境」という用語が各時期にどのような概念として扱われてきたか、またこれらの時間的変遷を建築界の動向や社会的背景をふまえながら理解するため、通時的に整理・考察することを目的とする。

## 2. 研究の範囲と方法

建築に関わる文献の中で最も長期に渡って定期的に発行されており、各時期の社会的課題を反映している日本建築学会の会報誌「建築雑誌」（1887～2018年）の中で「環境」に関連する記事、全1,795件を抽出し分析対象とした。これらの記事タイトルに対してテキスト分析に使用されるKH Coder<sup>1</sup>を用いて各時期（①1887～1945年、②1946～1959年、③～⑧1960年代以降10年毎の計8期）ごとの共起ネットワークを作成する。全時期をまとめたネットワーク図を図1に示す。これらを元に「建築雑誌」の記事内容を時期毎、また通時的に分析する。

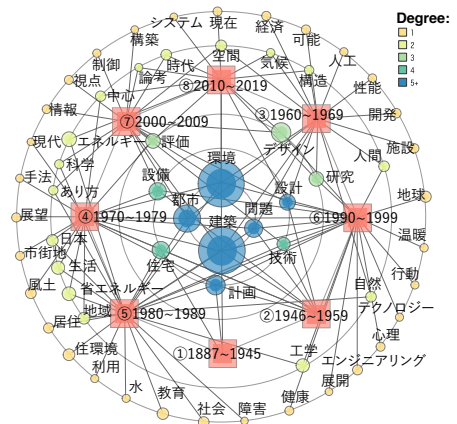


図1. 全時期を対象とした共起ネットワーク

## 3. 分析結果

「環境」という用語と共起する語を分析した結果、各時期の「環境」の対象傾向は以下の通りとなった。括弧内の数字は記事数とする。①戦前までは「建築雑誌」において「環境」用語はほとんど用いられていない。②「設備」（28）、「原論」（15）、「技術」（6）から環境工学関連記事の発展がみられる。③1960年代：「経済」の成長を背景に「人工」（23）、「性能」（23）、「開発」（20）が用いられている。④1970年代：「エネルギー」関連以外に、公害を伴う都市成長に対する反動として「風土」（73）などの特徴がみられる。⑤1980年代：共起している語が最も多様であり、「教育」（40）、「障害」（33）など他分野とのつながりもみられる。⑥1990年代：「地球」（47）、「温暖」（32）から地球環境問題関連の語が増え始める。⑦2000年代：「デザイン」（49）などの建築による具体的施策への移行がみられる。⑧2010年代：「気候」変動などの地球環境課題に対し、建築の「評価」（39）が始まっている。

## 4. 考察とまとめ

「環境」概念の変遷を追うと、室内から都市、地球へという空間的拡大、また物理的環境から心理的環境まで、建築を取り巻く多様な対象の様相が確認された。「建築雑誌」における「環境」に関する議論は、共起ネットワークの結果から21世紀に入り再び拡散する傾向にある。それは1980年代にみられた「環境」の概念的拡散ではなく、「環境」デザインによる建築への具現化過程における議論の多様化だと捉えられる。このように多様でありながら「環境」に対する議論が今後も活発化する中で、本研究で明らかにした建築界における時代毎の解釈や歴史的変遷を理解・共有することは重要である。

1) 樋口耕一, テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合—(理論と方法), 数理社会学会, 19(1): 101-115, 2004